

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

トビイロウンカの発生予想パターンについて（第3報）

トビイロウンカの発生予想パターンについては、7月20日付第606号により第2報を発表したところですが、その後の気温が平年に比べ高く推移（平年比（7/20～8/16）+1.7℃）したことから、8月16日までの気温を基に新たな発生予想パターンを作成しましたので、本田で防除する際の参考としてください。



トビイロウンカ

記

1. 飛来状況（第2報と同じ）

本年のトビイロウンカは、嬉野市の予察灯において6月20日～22日、6月30日～7月3日、7月13～16日、18～20日に捕獲された。特に、7月16日に主飛来とみられる飛来が認められたが、7月21日以降は飛来を認めていない（表1）。

2. 今後の発生パターン

梅雨明け以降、気温は平年より高く推移しているため、本種の生育は遅延し、**第2世代幼虫のふ化揃い期は第2報で示した時期よりも5日遅れて、防除適期は8月30日～9月3日と予想される（図1）。**

3. 今後の発生程度

- (1) 8月1日～3日に実施した普通期水稻(48圃場)の調査では、発生株率は0%(平年1.7%、前年0.3%)であり、発生程度は平年及び前年並であった。〈±〉
- (2) 8月の気温は平年に比べ高いと予想されており、本種の増殖に好適な条件である。〈+〉

4. 防除対策

- (1) 発生予想パターンを参考に、各圃場で発生状況を確認し、防除適期である第2世代幼虫ふ化揃い期に防除を行う（図1）。
- (2) 第2世代幼虫を対象とした防除の効果確認と第3世代幼虫を対象とした防除の必要性の可否を判断するため、薬剤防除後に本種の発生状況を確認する。
- (3) (2)で第3世代虫の防除が必要と判断された場合には、10月1半旬頃の幼虫ふ化揃い期に本種の発生状況を確認し、速やかに防除を行う。
- (4) 本種の生態や防除対策の詳細については、「病害虫防除のてびき」や「トビイロウンカの生態と防除に関するQ&A」^{注)}を参照する。

注) 農業技術防除センターのホームページ (http://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji00322054/index.html) トピックスに掲載中。

5. 最新の飛来状況

佐賀県農業技術防除センターのホームページ

(http://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji00322082/index.html)における「海外飛来性害虫情報」を参照してください。

表1 各トラップにおけるトビイロウンカの誘殺日
(平成28年)

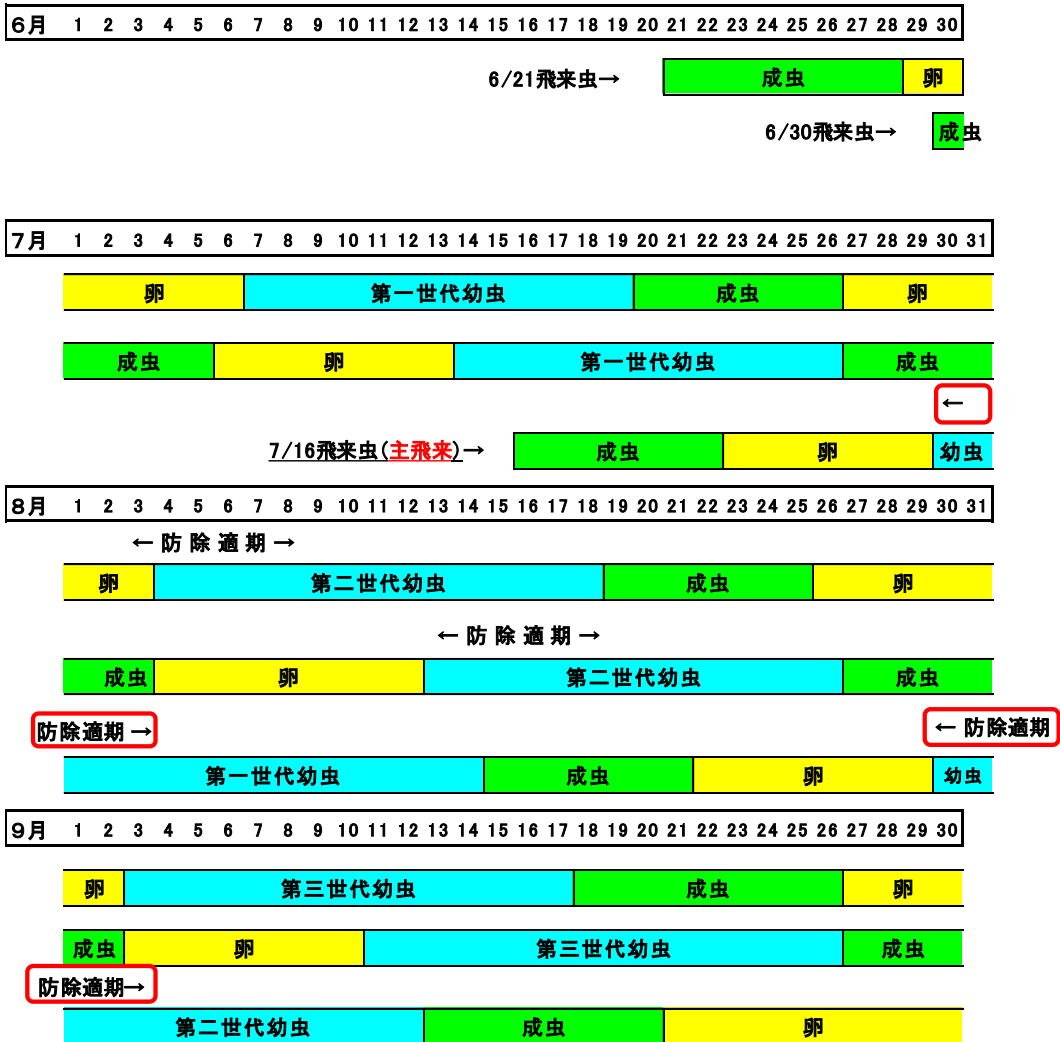
月	日	佐賀市 ネット トラップ ¹	佐賀市 ライト トラップ ¹	嬉野市 ライト トラップ ¹
6月	20日	0	0	4
	22日	0	0	2
	30日	0	0	1
7月	3日	0	0	1
	13日	0	0	9
	14日	0	0	4
	16日	0	0	22
	18日	0	0	3
	19日	0	0	1
	20日	0	0	2

注1) 佐賀市のトラップは農業試験研究センター調査。嬉野市のトラップは農業技術防除センター調査。

注2) 調査期間は6月1日～8月14日

図1 トビイロウンカの発生予想パターン

(平成28年8月17日、佐賀県農業技術防除センター作成)



(注)

- (1) 6月21日、30日及び7月16日の飛来虫を起点として、有効積算温度と佐賀市川副町(農業試験研究センター内)の日最高気温及び日最低気温(8月16日までは今年のデータ、8月17日以降は平年値)を基に、その後の発生を予測した。